

2018年10月16日

日本小児科医会
稲光 毅 先生

手持ち自動判定機能付きフォトスクリーナー装置に関する
小児科医向け運用マニュアルについて

拝啓 時下益々ご清祥の御事とお慶び申し上げます。

日頃は乳幼児健診等におきまして、視覚異常の検出に関し、先生方に格別のご配慮を賜り、心より御礼申し上げます。

標記の手持ち自動判定機能付きフォトスクリーナー装置 Spot vision screener は、乳幼児の視覚異常を簡便に検出する機器として 2015 年から国内で販売され、小児科や健診現場に急速に普及しております。本機器は小児の視覚異常の早期発見に寄与すると期待されますが、要精検となった場合の眼科への連携に問題が生じていることを指摘されました。

そこで、7月に小児科と眼科のよりよい連携が進められるよう、関連学会として小児科医向けマニュアル第1版を作成し、各自治体へ周知するとともに、ホームページに掲載いたしました。

<https://www.jasa-web.jp/c-news/1489>

<http://www.japo-web.jp/>

(内容につきましては別紙をご高覧ください。)

日本小児科医会会員の先生方にも是非ご一読いただき、ご意見を賜りたいと存じます。

つきましては貴学会のホームページに本マニュアルを掲載もしくはリンクして、周知をお願い申し上げます。

ご多忙中恐縮に存じますが、何卒よろしくご高配をお願い申し上げます。

日本弱視斜視学会 理事長 佐藤美保

日本小児眼科学会 理事長 東 範行

乳幼児健診担当理事・小児科健康診査委員会委員 仁科幸子

はじめに

先生方には、大変お忙しい中、健診の場や、日常診療において、目の異常の早期発見のために、多大なご協力をいただきまして誠に有難うございます。

ご存知のとおり、子どもの視覚は発達途上にあり、早期に発見しないと高度の弱視を生じる疾患がございます。手持ち自動判定機能付きフォトスクリーナー装置、Spot vision screener（以下SVS）は、2015年に我が国で販売開始となり、弱視や斜視の早期発見に役立つ機器として急速に普及してまいりました。しかし、企業主導で情報提供・販売が行われたため、現時点まで、小児科と眼科の間で情報共有がなされていない状況です。

本機器の運用に関し、小児科と眼科のよりよい連携が進められるように、関連学会としてマニュアル第1版を作成いたしました。

今後とも、小児眼科診療へのご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

SVSで何ができるか？

1、SVSで視力を測ることはできません！

弱視の危険因子となる斜視および屈折異常（遠視、乱視、近視、不同視）をスクリーニングする機器です。

2、目の診察、問診、視力検査に併用するスクリーニング機器としてお使いください。

※以下のマニュアルを参考としてください。

目の診察や問診に関するマニュアル

⇒乳幼児健康診査身体診察マニュアル

https://www.ncchd.go.jp/center/activity/kokoro_jigyo/manual.pdf

3歳児健診における視力検査のマニュアル

⇒日本弱視斜視学会 <https://www.jasa-web.jp/general/about-3sai>

<https://www.jasa-web.jp/general/3sai-guide>

3、低年齢（3歳未満）におけるスクリーニングの精度は確立しておりません。

要精密検査の基準はアメリカでのデータをもとに決められています。

3歳～5歳児の弱視のスクリーニングに有効ですが、感度が高く（偽陰性が少ない）、特異度が低い（偽陽性が多い）装置です。

SVSによる異常結果の取り扱い

要精密検査の結果が出た場合には、小児の測定条件が良好であることを確認し、少なくとも2回以上は検査を行ってください。後述の基準にそって、眼科医療機関へご紹介ください。

1、両目または片目でのスクリーニングが完了しない場合（時間制限なしと設定しても測定できない）

年齢を問わず（生後6か月～）、早急にお近くの眼科医療機関へご紹介ください。

先天白内障、網膜剥離などの重篤な眼疾患が潜んでいる可能性があります。

2、斜視(偏視)が検出された場合

少なくとも2回、斜視が検出された場合

年齢を問わず(生後6か月～)、斜視を専門とする眼科医療機関へご紹介ください。

⇒弱視・斜視を専門とする医師 <https://www.jasa-web.jp/general/doctor-list>

3、屈折異常(遠視、乱視、近視、不同視)が検出された場合

① 生後6か月～1歳未満

スケールオーバー(±7.50D以上)の屈折異常が検出された場合、お近くの眼科医療機関へご紹介ください。眼底疾患などが潜んでいる可能性があります。

② 1歳～3歳未満

遠視が検出された場合、眼科医療機関へご紹介ください

近視、乱視、不同視は偽陽性が多いため、推奨する基準値(カットオフ)を検討中です。

③ 3歳以上

現行の基準に視力検査結果を合わせて、眼科医療機関へご紹介ください

近視、乱視、不同視は偽陽性が多いため、推奨する基準値(カットオフ)を検討中です。

現行におけるSVS屈折異常判定の基準値≦(D: ジオプター)

年齢(月齢)	不同視	乱視	近視(等価球面值)	遠視(等価球面值)
6～12	1.5	2.25	2	3.5
12～36	1	2	2	3
36～72	1	1.75	1.25	2.5

推奨する基準値(検討中)

年齢(月齢)	不同視	乱視	近視(等価球面值)	遠視(等価球面值)
6～12 未満	5	スケールオーバー	スケールオーバー	スケールオーバー
12～36 未満	1.5	3	5	3
36～72	1.5	2	2	2.5

* 屈折異常の偽陰性は遠視、偽陽性は乱視、不同視、近視に多くみられます。そこで屈折異常の推奨する基準値について、2016年2月～2018年2月に国立成育医療研究センターでSpot vision screenerを施行した6か月～3歳の小児228例の判定を眼科専門医が精密検査を行って検証した結果をもとに仮作成いたしました。さらに多施設で妥当性を検証し、わが国の眼科健診・診療に適したガイドラインを完成させたいと考えております。

眼科医療機関への紹介

日本弱視斜視学会では「弱視・斜視を専門とする医師」のリスト、日本小児眼科学会では「小児眼科を専門とする医師」のリストを公開しておりますが、登録されている医師数に限りがあります。

各地域で弱視斜視・小児眼科に詳しい先生と連携をとって頂きたいと考えております。

Q&A

ご質問やご不明な点がございましたら、下記の学会事務局までご連絡をください。

〒567-0047 茨木市美穂が丘3-6-302

Tel 072-623-7878, fax 072-623-6060

Email: folia@hcn.zaq.ne.jp

日本弱視斜視学会事務局

理事長 佐藤 美保

日本小児眼科学会事務局

理事長 東 範行

文責:乳幼児健診担当理事 仁科幸子・臼井千恵・八子恵子・杉山能子・南雲 幹

作成協力者 森 隆史、林 思音、清水ふき